

第72回「社会を明るくする運動」 調布市意見発表会 意見発表文

学校名	第八中学校
代表者氏名	仲田 栞（なかた しおり）
学年	2年
題名	いじめと私
本文	
<p>私はいじめをしたことがあるかもしれない。</p> <p>小学六年生の頃、仲の良かった友達がいたが、ずっと一緒にいたため、その友達の嫌な部分が見えるようになった。だからその友達と距離をとるようになった。私はその友達と私の、一対一の問題だと思っていたが、実は他の友達もその友達のことをそれぞれの理由で嫌になって距離をとっていた。</p> <p>私達は、皆で協力してその友達と距離を置いたわけではなかったため、当時の私は自分の行動がいじめだとは思っていなかった。けれど、私がいじめだと思っていなかったとしてもその友達は私達が協力して自分と距離をとったと感じたかもしれない。当時、その友達が私達の行動に対していじめだと感じていたのであれば、私達が思っていなくても、いじめをしたことになるのかもしれない。</p> <p>また、私は中学一年生の頃、反対の経験をしたことがある。仲の良かった友達数人から距離をとられたことがあった。相手がどう思っていたかは知ら</p>	

ないが、私は当時自分のされていることがいじめだとは感じていなかった。これは、人によって自分のされていることをいじめと感じるか感じないかの違いだと思う。その行動をした人も自分の行動がいじめという認識があるのか、そうではないのかの感じ方は違う。

意識的にいじめをしている人も少なからずいるが、自分の行動はいじめではないと思っていて、意識せずに相手を傷つけている人もいる。自らの行動がいじめになってしまう可能がゼロではないということを私達は理解しなくてはいけない。実際、私が小学六年生の頃の行動が相手を傷つけ、いじめと感じていたのであれば、私達はいじめをしたということになる。

私は、友達が数人から仲間外れにされている場面を見たことがあるが、仲間外れをしている方の方は、自分の行動がいじめに値すると理解しているのだろうか。もしかしたら皆で何となく一緒にその子を仲間外れにしているのかもしれない。相手がいじめだと感じた時点でその人達の行動は歴としたいじめになってしまう。

このように、いじめと認識できる境界線を世の中のほとんどの人が理解していないからこそいじめが無くならないと私は思う。

いじめを完全になくすことは難しいかもしれないが、少しでも社会からいじめをなくすためにできることを私なりに考えてみた。

まず、無意識のうちに起こるいじめをなくすためには、何がいじめになる

のか、いじめの境界線を考えて行動することだと思う。また、自分の行動が相手を傷つけないか、自分の行動を見直すこともとても大切だと思う。

意図的ないじめは絶対にしてはいけないことであり、許されることではないが、いじめをしてしまう側にも“理由”があるのかもしれない。その理由には、家庭環境やストレスがある。そのような人が集団的ないじめをした時、その場のいじめを解決しても、いじめをする人の根本的な原因を改善することは難しい。その場合は、学校の先生や親に相談するなど、大人も関わるのが重要だと思う。

意図的ないじめをなくすために今、自分たちにできることはなんだろうか。例えば私とは人との「コミュニケーション」をとることだと思う。いじめをしている人は、様々なストレスや誰かに認めてもらいたいという思いがあるため、その人に対して話しかけることによって、自分の存在が認められたと感じ、いじめをする気持ちがなくなるかもしれない。

また、皆が積極的にコミュニケーションをとるようにすれば、話を聞いてあげることでストレス軽減につながって、いじめをなくすことができると思う。

私は当時の経験から、いじめについて考えることができたが、私と同じような経験がない人でも、いじめについて考えてもらうために、まず自分がいじめについて意識して行動していきたい。そして、私のこの思いがまわりに

伝わって、いじめがなくなることを心から願っている。